

別紙様式1		令和4年度		学校評価表		(中間)		三原市立糸崎小学校		校番(2)					
a 学校教育目標		市教育委員会教育基本理念 「志を抱き、その実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成」 これからの三原市の学び 「教える学びから全ての子どもが自ら考え行動する学びへ」 糸崎小学校教育目標 「学び つながり 挑戦する子ども ―地域を支え、世界で活躍する姿をめざして―」			b 経営理念 ミッション・ビジョン		【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童を育成することを通して社会に貢献する。 【ビジョン】(自校の将来像) 自ら学び、共に学び合う「知・徳・体」の調和のとれた児童を育成する。								
評価計画						自己評価					改善方策		学校関係者評価		
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	担当	9月	2月	i	j	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
						h 達成	h 達成	達成度	評価			イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	主体性・積極性を育て、確かな学力をつける。	◎糸小モデルをもとに授業改善を図り、主体的学習を推進することで、学力の定着を図る。 <糸小モデル> ・必然性のある発問 ・子ども主体の学び ・ルーブリック共有 ・思考ツール ・キャリア教育の視点 ・深い学びとレジリエンス ・学びポートフォリオ(学びファイル)	①精選し、効率化した授業内容の創造 ・毎時間のねらいを原則1点にし、到達度を明確にして点検することにより、授業での確実な定着を図る。 ・本校の研究内容をもとにして、授業の深まりの在り方を模索する。(クロームブックの活用、「話す・聞く」「書く」等アウトプット活動の充実、自己評価・自己点検(OPPシート)の振り返り等	・思考力を評価するテストにおいて各学年目標数値を設定し、達成した児童の割合	80%以上	教育研究部	71.0%		71%	C	・思考力を評価するテストにおいて、各学年目標数値を達成した児童の割合が80%以上に到達した学年は以下の通りである。学校生活や教員自身の時間的・精神的なゆとりが持てなかったことから、児童に基礎学力が身に付いていないと考えられる。 国語…1年、5年、6年 / 算数…1年 ・「学び(授業)がおもしろい」の関連項目について肯定的評価をしている児童の割合は94%であった。学習において新しい発見をすることが面白いと感じている児童が多いことが分かった。 ・学習アンケートにおける各項目の肯定的評価は、「比べて聞く」が88%、「結論先行、理由をつけて説明する」が78%であった。友だちの話を聞く中で比べて聞ける児童が多い一方で、根拠をもとに話を意識して発表しているや自覚している児童が7割に留まることが分かった。「結論+理由」の話を意識できるよう教員、児童との共通認識を図りたい。	・校内研修や外部の講師に来校してもらい目指す授業(糸小モデル)による深い学びの在り方を共有 ・管理職・教職員による授業参観「見る・観る・みせるウィーク」・研究授業に必ず2回実施 ・全国学力・学習状況調査の誤答分析による実態把握(全教職員で国語と算数の課題分析を行い、改善点の共有) ・昨年度の誤答分析をもとにNRT、全国学力状況調査に向けて、朝の時間、ドリルタイムでアシストシートや(全国学力状況調査においては)過去問をし、進捗状況を全教職員で共有する。また、課題のあった単元の練習問題を各学年作成し、実施する。	5	1	・問題解決に向けた日々の実践により、児童の成長が見られました。 ・タブレットなどによるICT教育が強力に進行している印象を受けました。児童自身の試行へのエネルギーや理解のプロセスでの手触り感・実感が弱いと感じる印象です。 ・経営理念に基づきながら、前向きに実行され、努力されている。 ・思考力に関する指標は厳しすぎるところがあります。 ・現在の取り組みをしっかりと実行することで成果につながっていくと思います。 ・高い目標値を設定して、学校全体で目標に向かって努力していることが分かりました。 ・校内研修のたよりの発行など、学校全体で授業の質の向上に取り組まれていることが分かりました。 ・結果と課題の分析 改善の方策とも適切になされています。
			②学びポートフォリオ(学びファイル)をもとに自分の成長や課題がわかり、自己理解を深める取組を進める。	・学習アンケート 「学び(授業)がおもしろい」の関連項目について肯定的評価をしている児童の割合	90%以上		94.0%	94%	A						
				・学習アンケート 「比べて聞く」「結論先行、理由をつけて説明する」の関連項目について肯定的評価をしている児童の割合	85%以上		83%	83%	B						
				・学びポートフォリオ(学びファイル) 自分が学んだことを振り返り、自分の成長や課題を感じることができる児童 ・関連アンケート	90%以上		87%	87%	B	・学びポートフォリオの取り組みは、初めての取り組みであり、その意義の周知と内容を精査する段階にある。自分の成果を懇談等で表現できたことは成果であり、87%の児童が肯定的な評価をしている。内容については、各担任と連携しながら、精査していく必要がある。	内容を充実させるために、どの内容が成長や課題を実感し、自分理解を深めるものなのか実践を重ね、工夫をしていく必要がある。特に、成果物やテストなどの資料をどのように活用していくのか検討していく。				
豊かな心の育成	協働し、挑戦し、自分の役割を果たす中で、社会性や豊かな人間性を培う。	◎キャリア教育の視点を持った取組を通して、友だちとつながり、挑戦する子どもを育て自己効力感の向上を図る。 ◎地域とつながり、地域に貢献する子どもを育てる。	①糸小ギネス(年間3つ以上)に全員が挑戦する。 ・3つの内容のうち、1つは体力づくりの内容に取り組む。 ・集団行動の規制による関わりの不足を補うため、児童間の肯定的評価を行わせ、つながりを意識させて取り組む。	・自分のことアンケート 自尊心の項目 6 13 自己効力感の項目 17 回復力の項目 22 24について、肯定的評価をしている児童の割合	85%以上	生徒指導部・保健安全部	78%		78%	B	自分のことアンケートの肯定的な評価は ・自尊心感情75% ・自己効力感82% ・回復力78% 以上のような結果となった。ある程度の成果はできているが目標に3～10%届かない結果となっている。友達同士の関わり合い・学び合いの中で、ある程度の自己の役割や自分に対しての良さを実感しているが、今後は授業や活動の中で、意識したり、意図的な活動を仲間だりしていく必要がある。	・自分の行動や友達との関りの中で、良さを意識させたり、実感させたりする指導方法の具体化をしていく必要があり、全教職員で実践していくことが求められる。 ・回復力・自尊心感情・自己効力感についての理論研修を行い、どのように取り組んでいくのか具体化していく。授業中の指導・評価の仕方、特別活動の意図的な取組など、学校全体で実践していく。	5	1	・子どもの活動も制限されていると同時に、地域の喪失感があると感じます。 ・様々な課題に直面されながら、普段の努力で学校を児童の学びを守られていると感じます。 ・糸崎小学校が基礎をしっかりと作っているので、中学校が安定していくと思う。糸崎小学校の児童をみてみると、しばらくは中学校がゆらぐことはない。土台が他校の生徒とは全く違うと感じます。 ・コロナ禍がおさまらない中でも、積極的に地域の教育力を活用して、社会性豊かな人間性を培われると思います。 ・結果と課題の分析、改善の方策とも適切になされています。
			②地域とのつながりを深め、地域を大事にする意識を醸成する。 ・地域貢献活動の実施(参観日での講話、ビデオ講師等の取組み、地域清掃活動、ふれあい体験活動 敬老会しおり配布、講師等へのお礼のはがき取組み等)	・体力づくりアンケート 体をうごかすことが好きな項目関連の肯定的評価をしている児童の割合	100%以上		100%	100%	A	・地域貢献活動は、ふれあい体験活動、敬老会しおり配布、講師のお礼の手紙を実施しており、学年2回以上を達成している。今後、参観日でのゲストティーチャーの招請も予定している。	・今後、地域とのつながりにおいて重要とんど祭りの取り組みが予定されている。計画的に進めていく。				
				・自分のことアンケート 糸崎地域を好きの項目について肯定的評価をしている児童の割合	90%以上		90%	90%	A	・糸崎地域を好きの項目について、肯定的な評価は90%であった。 生活科、総合的な学習の時間において、地域教材を扱ったり、身近な題材「糸崎駅」「公民館」を学習しているためと考えられる。	今後、糸崎が好きと答えた児童について、なぜ、好きなのか、どの活動や意識が肯定的な評価につながったのか分析し、否定的な評価をしている児童に気づかせたり、活動を仲間だりしていきたい。				
信頼される学校	保護者・地域との連携を密にし、信頼される学校を構築する。	業務改善を図り、働きやすい職場を目指す。	①業務改善委員会で改善方策を検討し、実施する。 (自己申告による定時退校日…1日)(17時20分からのサイレントタイム)(18時の確実な施錠…等)	・在校時間(外)が月35時間以下の職員数	85%以上	教務部・総務部	86%		86%	A	①業務改善を進めていった結果、在校時間(外)が35時間以下の職員数86%となり、目標を達成することができた。課題として、月ごとに分析した結果、多い月と少ない月の差が大きい。今後さらなる改善策が必要である。	以下の方法で更なる業務改善を図りたい。 ・スケジュール管理の工夫 ・登下校時刻の見直し ・行事の精選 ・週の時数の見直し	5	1	・効率的な業務の遂行ができていると感心した。 働き方改革が進行中との印象です。教職員のメンタルヘルズ、引き続きお進めください。

【I: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【I: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: 分からない。